

発掘調査実績報告

徳島市常三島遺跡

2002年度埋蔵文化財調査概要報告書

徳島大学（総）校舎改修その他工事に伴う埋蔵文化財発掘調査

2003年1月31日

徳島大学施設委員会
徳島大学埋蔵文化財調査室

- 1.遺跡名称 徳島市常三島遺跡
- 2.遺跡所在地 徳島市南常三島町 1 丁目 1 番地
- 3.調査契機 徳島大学（総）校舎改修その他工事に伴う埋蔵文化財発掘調査
- 4.調査面積 532 m²（本体 370 m²、西 1～4 区合計 162 m²）
- 5.調査期間 2002 年 7 月 29 日～2002 年 10 月 31 日
- 6.調査体制
- 調査主体 徳島大学施設委員会
委員長 齋藤史郎 徳島大学学長（発掘調査当時）
徳島大学埋蔵文化財調査室
室長 定森秀夫 総合科学部助教授
- 調査員 定森秀夫
中村豊 大学開放実践センター助手
- 調査補助員 堺圭子・井本尚子・安山かおり・岸本多美子・重見美緒子
施設部技術補佐員

7.調査経過

調査区は、総合科学部 3 号館中庭東側部分の本体区と校舎西側沿いの西 1～4 区とに分かれている（図 1 参照）。本体区の調査は、主に定森・堺・井本・安山が担当し、西 1～4 区は、中村・岸本・重見が担当した。

本体区は、工学部実験研究棟改修その他工事に伴う埋蔵文化財発掘調査と併行して、重機掘削を 7 月 29 日より 8 月 7 日まで行った。その後、第 1 遺構面の精査を開始したが、本体区の調査に関しては日程的に厳しい状況が予想されたので、遺構密度の薄い部分に関しては遺構の写真撮影・図面作成処理が終了次第、適宜第 2 遺構面、第 3 遺構面まで順次下げていく方法をとることにした。したがって、同一遺構面の全景写真を撮影することができなかった。

本体区で検出が予想され、また最も重要な遺構である屋敷境溝に関しては、9 月 3 日に S03 と S05 との遺物出土状況、9 月 19 日にそれらの完掘状況の写真撮影を行ったのを始めとして、それ以外の屋敷境溝の遺物出土状況・完掘状況の写真撮影も順次行い、最後まで残った屋敷境溝 S39 の完掘状況写真は 10 月 25 日に撮影することができた。

特に、調査区の北半は遺構密度が濃く、屋敷境溝とその他の遺構が錯綜と切り合っていて精査に時間を費やしたが、調査補助員堺・井本・安山に加えて 10 月 22 日より岸本・重

見にも参加してもらって調査を進めた結果、雨が降らなかったことも幸いして、終了予定日の10月31日にすべての調査業務を完了することができた。

西1～4区の調査は、重機掘削を8月5日から8月7日まで行い、順次各区の精査を行っていった。1・2区に関しては8月21日にすべての調査が終了した。3区は8月8日から4区は8月22日から精査を開始し、それぞれ若干の遺構が検出されたので写真撮影・図面作成の処理を行い、3区は9月4日にすべての調査が終了した。4区では獣骨と貝殻が出土するなどしたが、9月11日にすべての調査を終了することができた。

8.調査概要

本体区では多くの遺構が検出され、出土遺物も多かったが、西1～4区では若干の遺構と遺物を検出するのみに終わった。

西1～4区では、西2区が全面的に攪乱を受けていたが、その他の区では遺構が多少検出された。しかし、出土遺物が乏しく、それらの遺構の性格や時期を確定できるものは少ない。特に注意されたのは、西4区で獣骨と貝殻が集中して出土したことであるが、土器などは併出しなかったため、時期や性格などは不明である。

本体区では、遺構面を3つに分けて、それぞれに遺構精査を行った。遺構としては、明治時代以降の建物基礎、江戸時代の屋敷境溝、土坑、溝、井戸などがある。第1遺構面では明治・幕末の遺構を検出した。第2遺構面では、特に調査区北側で江戸時代の遺構が錯綜として切り合いを見せていて、特に屋敷境溝は切り合い関係が複雑であった。第3遺構面では調査区東端で、工学部実験研究棟改修その他工事に伴う埋蔵文化財発掘調査で確認された船入状遺構の北側にあると思われる水路の西端らしき落ち込みを検出したが、その一部を確認したのみなので、水路と確定はできていない。

また、遺構の分布密度を見ると、屋敷境溝を含めた北側には遺構が錯綜として存在していて、その南側は溝S19より南方には遺構が存在しているものの、この溝S19と屋敷境溝S05との間の3m前後の部分には全く遺構が存在していないことが、注意された。

以下、本体区で検出された主要な遺構をみていくことにする。

1) 屋敷境溝S03、05、09、13、17、18、37、39、42、43、54、56 (図2、図3、図4、図5、写真図版1中、写真図版2、写真図版3上)

調査区中央部より北方で、北側の福家宅と南側の佐和宅との屋敷境溝を重複して12条検出した。常三島遺跡におけるこれまでの調査成果を踏まえると、各屋敷がそれぞれ1条ずつの溝を有していて、2条の溝が平行して東西方向に掘られていたと考えられる。これら12条の溝を時期別に区別していくには、出土遺物の検討をせねばならないが、現段階では遺物による時期比定はできていない。したがって、詳細な時期比定と2条単位の組み合わせなどは、本報告書で検討してみたい。

図5の土層図をみると、屋敷境溝最終の幕末頃には、南側の佐和宅の屋敷境溝はS05で、

北側の福家宅の屋敷境溝はS09であったろうと考えられる。したがって、これらが幕末期の屋敷境溝の2条単位のセットになると思われる。それ以前の2条単位のセットに関しては、切り合い関係が複雑で、時期比定と同様に、今後の出土遺物の検討と遺構の再検討を要する。

2) 土坑S06 (図2、図6上、写真図版1上)

第1遺構面の北東部で検出した廃棄土坑である。調査区外の東側にこの遺構が広がっていることが予想されたので、発掘調査の最終日に、遺物の収集に努めた。

これは一つの大きな土坑ではなく、3つに分かれた土坑である。当初は北からS06-1、S06-2としていたが、調査が進むにつれて、本来のまとまりが分かってきた。S06-2は北と南の2つに分かれることが判明したが、実際に遺物を取り上げた後に、S06-1とS06-2北は一連の土坑で、S06-2南はさらに北と南に分かれることが判明した。したがって、最終的には、3つの土坑の集まりということになる。

これらは幕末の廃棄土坑と考えられ、多量の瓦・陶磁器などが出土した。中には、大谷焼の徳利が完形品で出土しており、これには「福嶋」の篋書がある。

3) 井戸S30 (図3、図7、写真図版1下)

調査区北東で検出した桶と石組を使用した井戸である。上述した土坑S06より層位的に下になるので、幕末まで下らない時期のものである。今回の発掘では唯一の井戸である。

上面に南北2.25mの大きく浅い楕円形の土坑があり、その南方に直径1.3m～1.45mの円形の井戸掘り方がある。その井戸掘り方内中央に直径約52cmの桶を設置している。桶の上端から20cmほど上は円形掘り方のままで施設らしきものが造られていた痕跡はなかったが、それより上には扁平な青石を30cm四方の方形に内部がなるように1段組んでいた。この石組みによる方形部分は、一部桶の直径内に入るものであった。また、石の設置方法は丁寧なものではなく、むしろ乱雑の感がある。

桶内部からは曲物底板などの木製品が出土した。湧水のため、底部まで掘ることは不可能であった。

4) 溝S53 (図4、図8、写真図版3中)

第3遺構面の東側で検出した遺構で、屋敷境溝S42などより層位的に下になる。したがって、当該地が宅地化される以前の江戸時代初期の遺構と考えられる。

南北の幅はほぼ5mである。現状でこの遺構の西側端から東へ4.5m分を検出したが、調査区外の東側におそらく延びていく大きな溝状の遺構である可能性がある。陶磁器類の出土はほとんど無かったが、青石など石類が多く埋土に含まれていた。

西側端がほぼ南北に直線的な落ち込みのラインとして確認されたので、人工的に掘削されたものと判断できた。また、南北断面の南側の立ち上がり部をみても明らかに人口掘削

を示している。深さは 40 cmほどである。この遺構の特徴は、底が水平となっていることである。そして、東側へ向かって途中から少しレベルを下げている。このようなことから、当初、工学部実験研究棟改修その他工事に伴う埋蔵文化財発掘調査で確認された船入状遺構の北側にあると思われる水路の西端ではないかと考えたが、水路にしては浅すぎることで、その後、水路西端によりふさわしい溝 S66 を検出したので、水路の可能性は減った。しかし、東方へ少しレベルを下げていることを勘案すると、まだ水路の可能性は残しておきたい。

5) 溝 S66 (図 4、図 6 下、写真図版 3 下)

第 3 遺構面で検出した遺構で、これも S53 同様に屋敷境溝 S39 などより層位的に下になるので、宅地化される前の江戸時代初期の遺構である。

幅は南北約 4.5m で、西側端より東へ 2.8m ほど確認しているが、おそらく調査区外の東側に延びていく溝と考えられる。溝 S53 とは異なり、緩やかに深くなっていく溝本来の様相を示している。ただし、下部では湧水が甚だしかったので、底を確認できていない。出土遺物には陶磁器や木製品などがあり、一部木簡も存在している。

この遺構の下部の埋土は、工学部実験研究棟改修その他工事に伴う埋蔵文化財発掘調査で確認された素掘り船入状遺構や石組み船入状遺構の下部の埋土とよく似た黒褐色粘質土である。溝の幅は少し狭く感じるものの、東へ行けば 5m 程度にはなるのではないかとと思われる。したがって、溝 S53 よりはこの遺構の方が、工学部実験研究棟改修その他工事に伴う埋蔵文化財発掘調査で確認された船入状遺構の北側にあると思われる水路の西端である可能性が高いように思える。

9. 調査のまとめ

今回の発掘調査は、常三島遺跡の中で総合科学部地域における最初の本格的な調査である。今回の調査成果としては、以下の二つが大きな成果と言えよう。

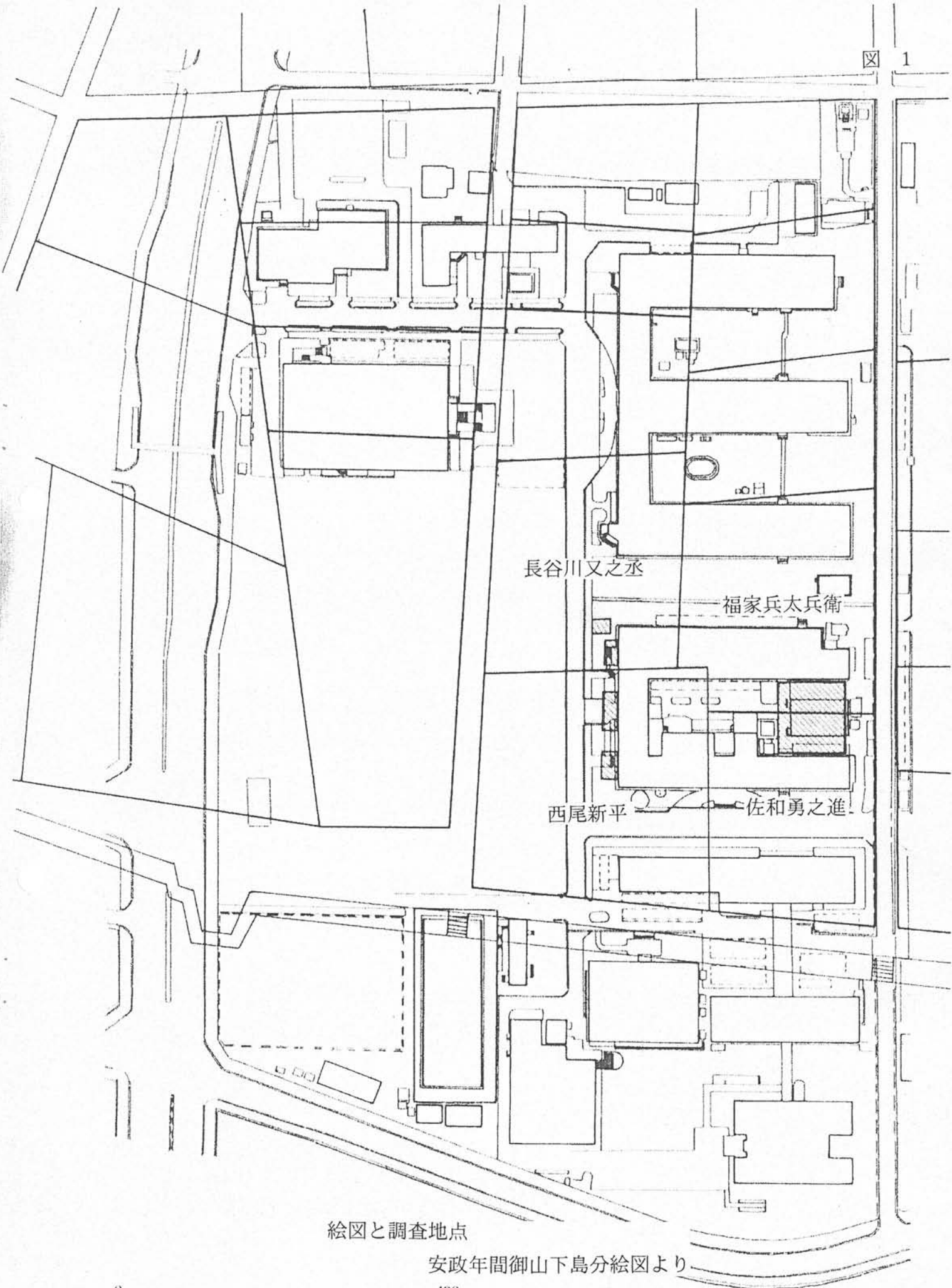
第一の成果は、絵図面に見られる屋敷境がほぼ絵図面通りに検出されたことである。安政年間御山下島分絵図によると、調査区の北側が福家兵太兵衛宅、南側が佐和勇之進宅となっているが、その屋敷境を画する溝が重複して 12 条検出された。この屋敷境溝は何度も造りかえられたり浚渫されているものと見られ、その切り合い関係の確認は調査中でも非常に困難なものであった。今後は、各溝からの出土遺物の検討を行って、時期別に分けて、屋敷境溝の変遷を追及していく必要がある。

第二の成果は、工学部実験研究棟改修その他工事に伴う発掘調査で確認された船入状遺構の北側にあると思われる水路の西端ではないかとと思われる遺構を検出したことである。これには溝 S53 と溝 S66 と二つの候補遺構があるが、状況的には溝 S66 の方が可能性は高い。ただ、水路の中間部分がこれまでの周辺の発掘調査では検出されておらず、確定することは非常に困難を伴う。しかし、両遺構が屋敷境溝より層位的に下で発見されたとい

う事実は、当該地が宅地化される以前の江戸時代初期の遺構であることを示している。

調査地点では多くの遺構が検出されていて、いずれも江戸時代における常三島遺跡における当該地の変遷を知る上で非常に重要な資料を提供してくれた。また、出土した遺物も多く、これらも当該地の性格やその変遷を知るのに重要な資料となる。

以上の点を踏まえて、今後遺構ごとの出土遺物の詳細な検討、切り合いの激しい遺構の再検討を通じて、報告書において諸々の問題点を追究していくことにしたい。



長谷川又之丞

福家兵太兵衛

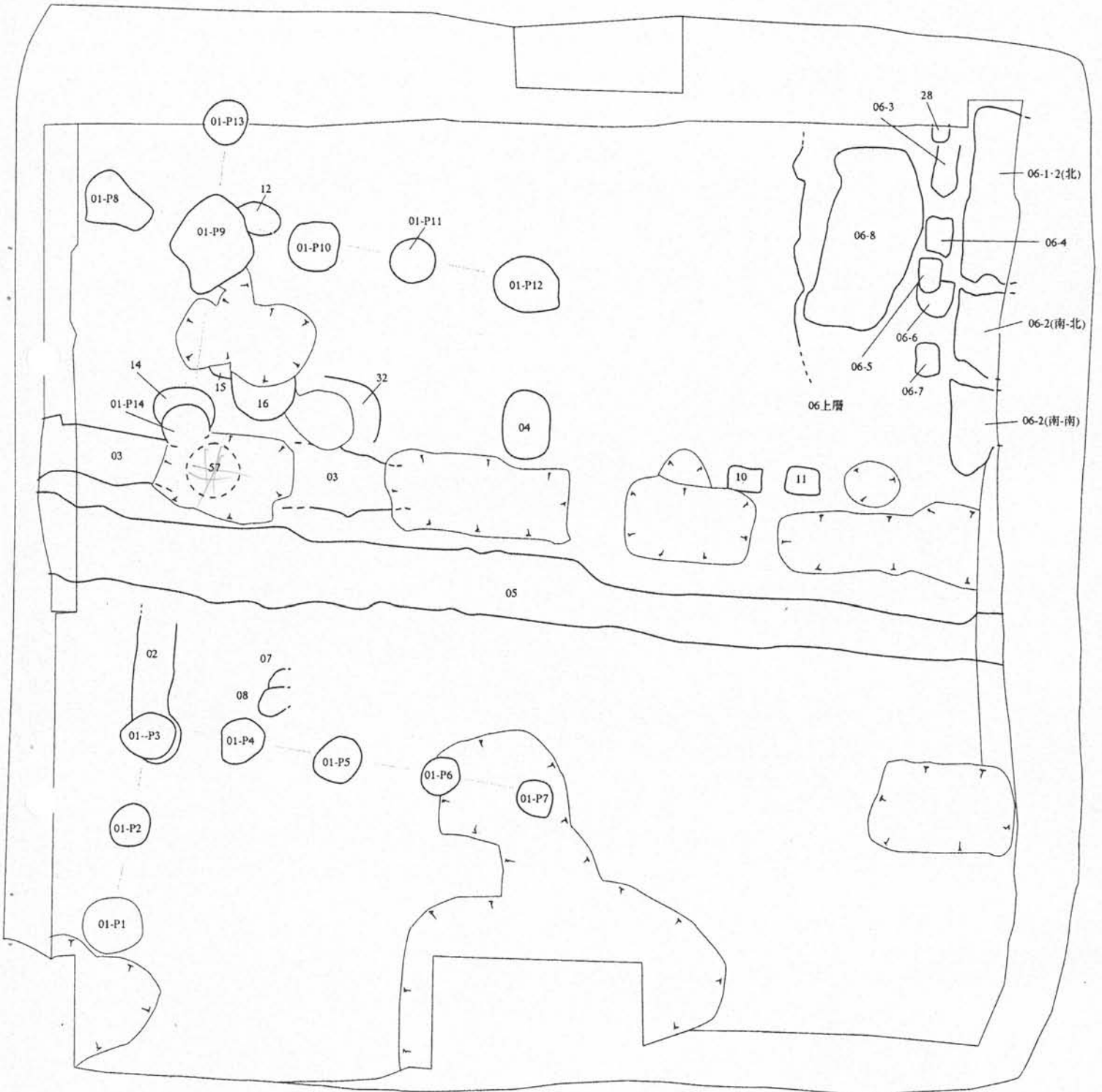
西尾新平

佐和勇之進

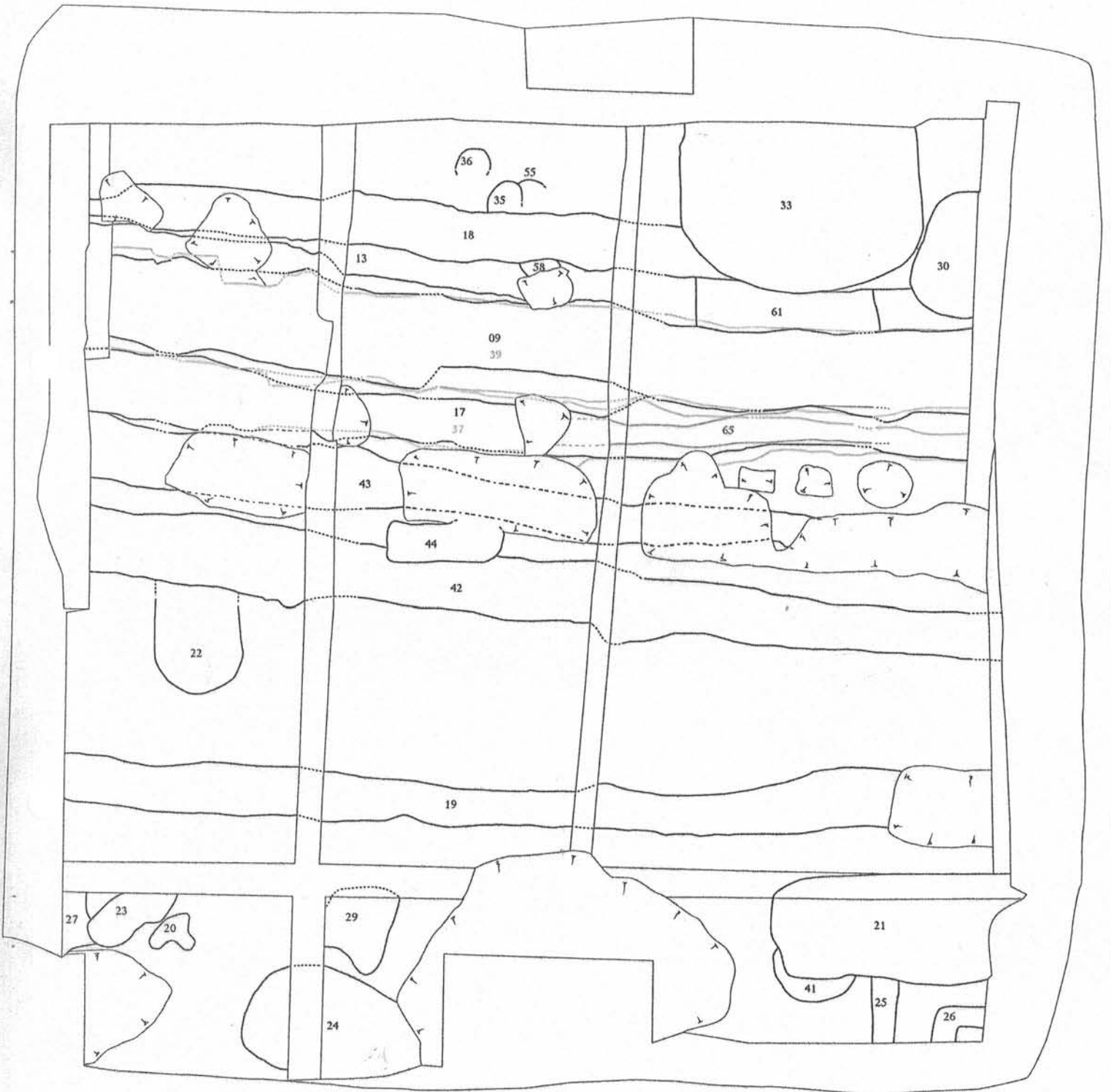
絵図と調査地点

安政年間御山下島分絵図より

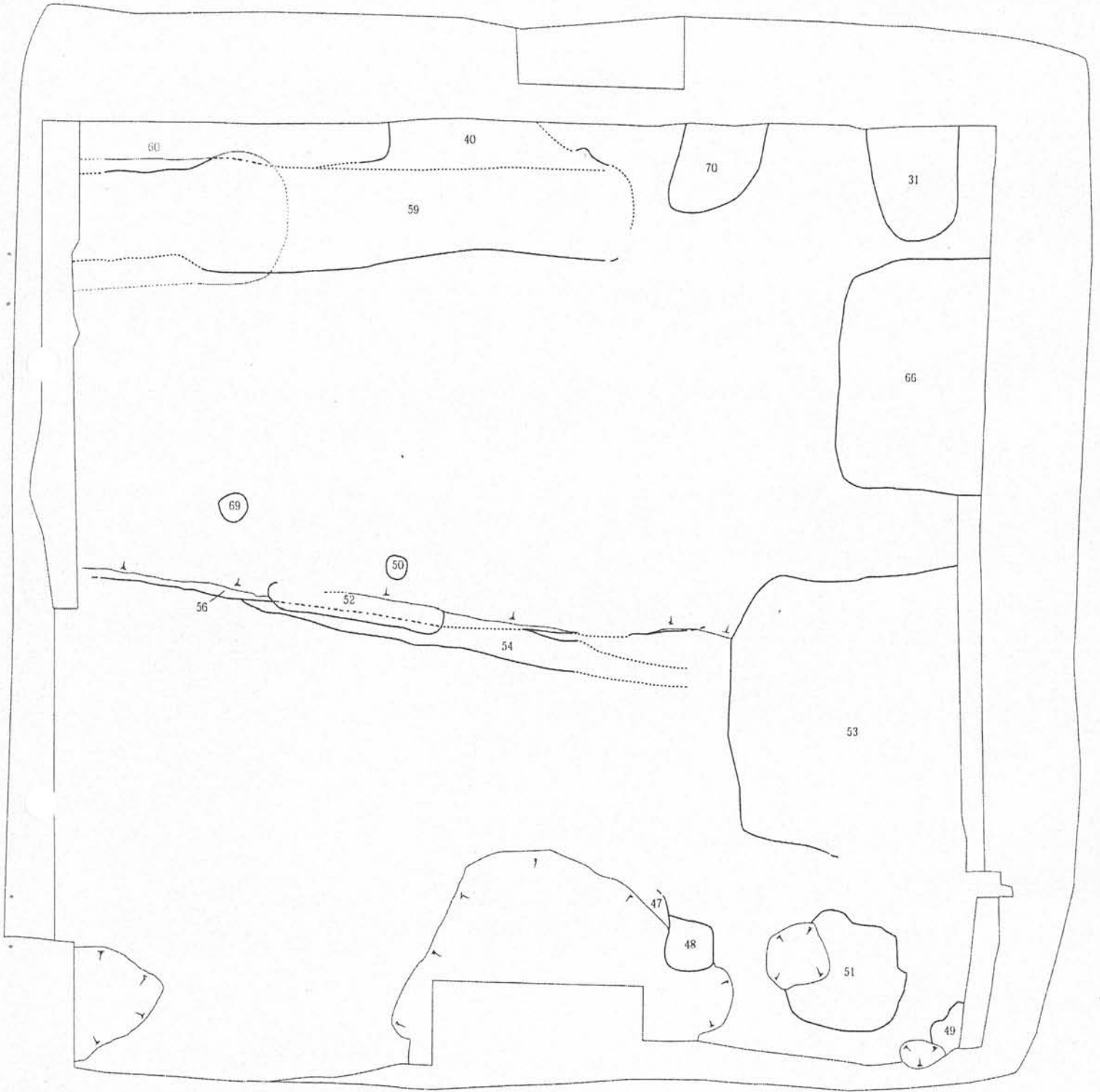




遺構平面図 1 (S=1/100)

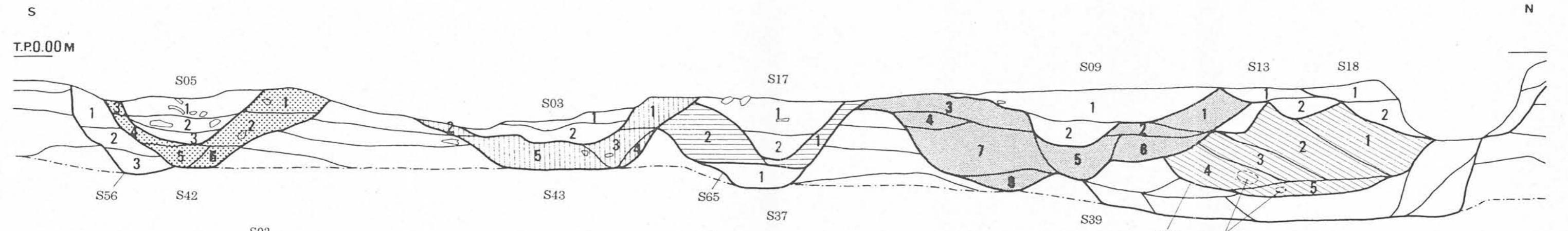


遺構平面図 2 (S=1/100)



遺構平面図 3 (S=1/100)

攪乱



S03
 1: 2.5Y 4/2 暗灰黄色 微砂少量まじりシルト質粘土 (粘性強) → 下層
 2: 2.5Y 4/1 黄灰色 微砂ごく少量まじり粘土に 10Y 5/1 灰色 微砂少量まじりシルト質粘土混入 → 最下層 (有機物層)

S05
 1: 10Y 4/1 灰色 シルト質粘土 (粘性強) に 7.5Y 4/2 灰オリーブ色 微砂まじりシルト質粘土混入 炭化物含む → 上層
 2: 5Y 5/1 灰色 (やや暗い) 粘土 炭化物含む → 下層
 3: 5Y 4/1 灰色 微砂ごく少量まじり粘土 → 最下層 (有機物層)

S09
 1: 7.5Y 5/2 灰オリーブ色 微砂少量まじりシルト質粘土 (粘性強) 礫混入 炭化物含む → 上層
 2: 1層よりやや灰色強い 微砂少量まじりシルト質粘土 (粘性強) 礫混入 → 下層

S13
 1: 5Y 5/2 灰オリーブ色・7.5Y 4/1 灰色 微砂まじりシルト質粘土 鉄分含む
 2: 7.5Y 5/2 灰オリーブ色 微砂まじりのきめの細かいシルト質粘土 礫混入 鉄分多い 炭化物含む

S17
 1: 5Y 5/2 灰オリーブ色 (やや灰色強い) 微砂少量まじりシルト質粘土 (粘性強) 炭化物含む
 2: 10Y 4/1 灰色 微砂少量まじり粘土

S18
 1: 7.5Y 4/2 灰オリーブ色 微砂まじりシルト質粘土 礫混入 鉄分含む
 2: 5Y 5/2 灰オリーブ色 微砂まじりシルト質粘土 礫混入 鉄分含む

S37
 1: 7.5Y 5/1 灰色 (やや暗い) 微砂まじりシルト質粘土 (粘性強) 礫混入
 2: 7.5Y 5/2 灰オリーブ色 微砂まじりシルト質粘土 (粘性強) 礫混入

S39
 1: 7.5Y 5/2 灰オリーブ色 (やや暗い) 微砂少量まじりシルト質粘土 (粘性強) 礫混入 鉄分・炭化物含む
 2: 7.5Y 5/1 灰色 微砂多量まじりシルト質粘土 鉄分沈着
 3: 2.5Y 4/3 オリーブ褐色 微砂まじりシルト質粘土 (粘性強) 鉄分多い 炭化物含む
 4: 2.5Y 5/3 黄褐色 微・細砂多量まじり粘土 鉄分多い
 5: 5Y 5/3 灰オリーブ色 (やや明るい) 微砂多量まじり粘土に 7.5Y 5/1 灰色 微・細砂多量まじり粘土 斑状に混入 鉄分多い 炭化物含む
 6: 7.5Y 5/2 灰オリーブ色 微砂まじりシルト質粘土 (粘性強) 鉄分多い 炭化物含む
 7: 5Y 6/2 灰オリーブ色 微・粗砂まじり粘土に 7.5Y 6/1 灰色 微・粗砂まじり粘土斑状に混入 礫混入 鉄分多い
 8: 7.5Y 5/2 灰オリーブ色 微・細・粗砂まじり粘土 鉄分含む

S42
 1: 10Y 5/1 灰色 シルト質粘土 (粘性強) に 7.5Y 5/2 灰オリーブ色 微砂まじりシルト質粘土混入
 2: 7.5Y 5/2 灰オリーブ色 微砂まじりシルト質粘土に 10Y 5/1 灰色 シルト質粘土 (粘性強) 混入
 3: 7.5Y 5/2・7.5Y 6/2 灰オリーブ色 微砂多量まじりシルト質粘土
 4: 7.5Y 4/2 灰オリーブ色 微・細砂多量まじりシルト質粘土 礫少量混入
 5: 5Y 5/2 灰オリーブ色 微・細砂多量まじり粘土
 6: 10Y 5/1 灰色 微・細砂多量まじり粘土

S43
 1: 7.5Y 4/2 灰オリーブ色 微砂まじりシルト質粘土 (粘性強) 炭化物含む
 2: 7.5Y 5/1 灰色 微砂まじりシルト質粘土 (粘性強)
 3: 10Y 5/1 灰色 微砂まじりシルト質粘土 (粘性強) に 7.5Y 5/2 灰オリーブ色 微砂多量まじりシルト質粘土 (粘性強) 混入 礫混入
 4: 7.5Y 6/1 灰色 微・細・粗砂多量まじり粘土
 5: 7.5Y 5/2 灰オリーブ色 微・細・粗砂多量まじり粘土 礫混入

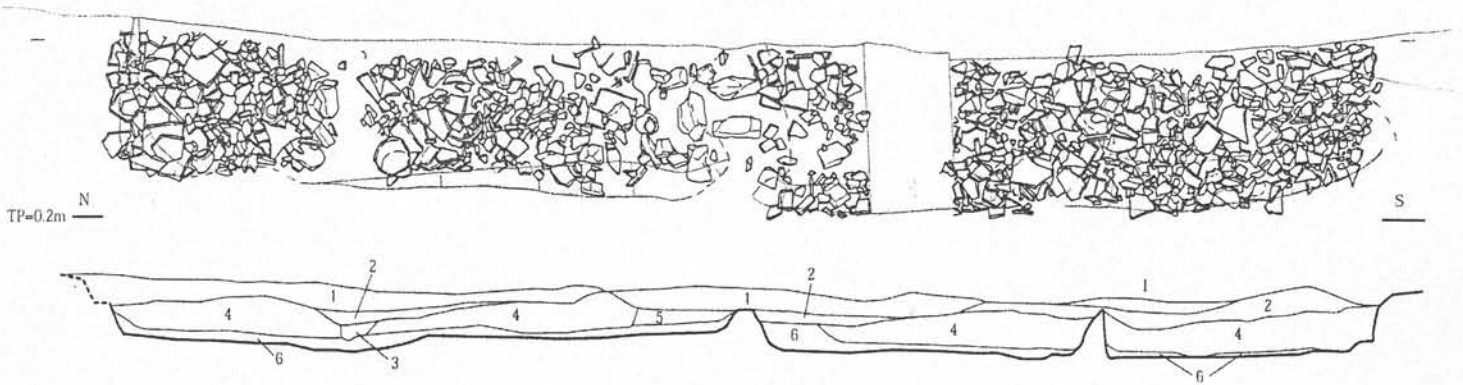
S56
 1: 10Y 5/1 灰色 シルト質粘土に 7.5Y 5/2 灰オリーブ色 (やや暗い) 微砂混入
 2: 7.5Y 5/2 灰オリーブ色 微・細砂多量まじりシルト質粘土 礫混入 鉄分沈着
 3: 2.5Y 4/4 オリーブ褐色 微・細・粗砂 礫混入 鉄分含む

S59
 1: 2.5Y 4/3 オリーブ褐色 微砂多量まじりシルト質粘土 礫混入 鉄分・炭化物含む
 2: 5Y 5/2 灰オリーブ色 (やや灰色強い) 微砂多量まじりシルト質粘土に 7.5Y 5/1 灰色 微砂まじりシルト質粘土斑状に混入 礫混入 鉄分・炭化物混入
 3: 5Y 5/2 灰オリーブ色 微砂多量まじり粘土 礫混入
 4: 7.5Y 5/2 灰オリーブ色 (灰色強い) 微砂多量まじり粘土 礫混入 鉄分・炭化物・貝含む
 5: 10Y 4/1 灰色 微・細砂多量まじり粘土 (粘性強) 礫混入 鉄分・炭化物・貝・木片含む

S65
 1: 2.5GY 5/1 オリーブ灰色 微砂ごく少量まじり粘土 (粘性強) 炭化物含む

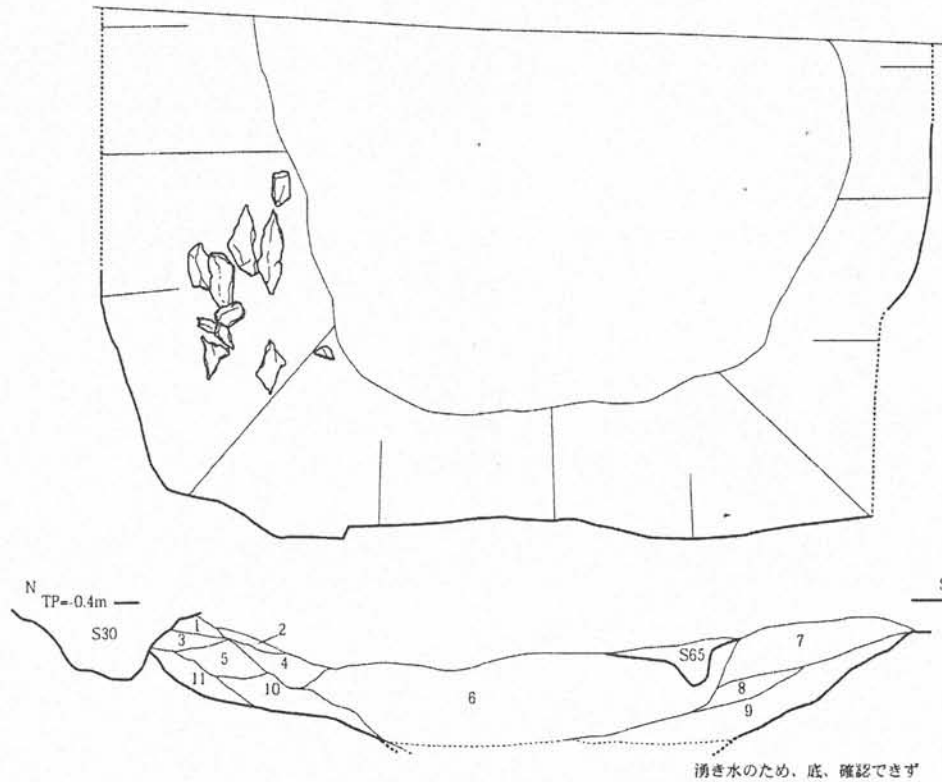


屋敷境関連溝 切り合い関係 (調査区西壁土層断面)



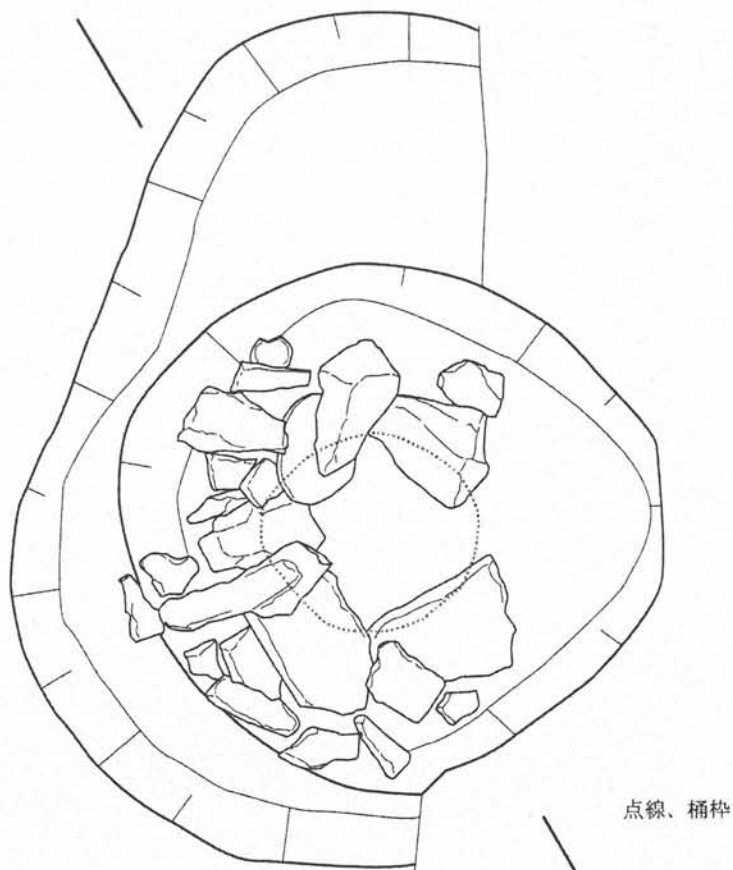
- | | | | |
|---|---------|--------|----------------------------------|
| 1 | 5Y5/2 | 灰オリーブ色 | 砂質土 (粒子, 粗い) |
| 2 | 7.5Y4/2 | 灰オリーブ色 | シルト質 (砂まじり) |
| 3 | 7.5Y3/2 | オリーブ黒色 | 粘質土 (粗砂まじり) 粘性, 強 |
| 4 | | | 遺物廃棄層 |
| 5 | 10Y4/2 | オリーブ | 灰色粘質土 (粗砂まじり) 粘性, 弱 |
| 6 | 7.5Y3/1 | オリーブ黒色 | 粘土層 (細砂まじり) 粘性, 強 遺物・板類・有機物を多く含む |

S06-1.2 (北) (南-北) (南-南) 平・断面図 (S=1/40)

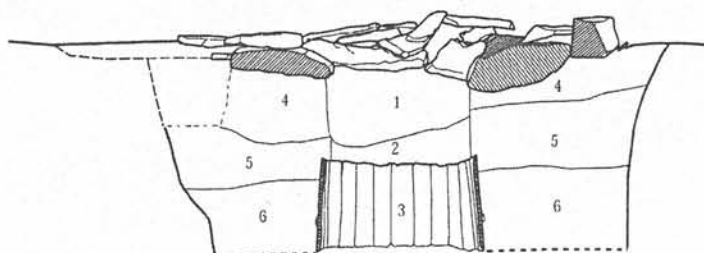


- | | | | | | | |
|----|----------|-----------------|---------|-------|------------|--------------|
| 1 | 5Y4/4 | 暗オリーブ色 | 7.5Y4/2 | 灰オリーブ | 細砂層 | 鉄分含む |
| 2 | 10Y4/2 | オリーブ灰色 | | | 細砂層 | 鉄分含む |
| 3 | 5Y4/2 | オリーブ灰色 | | | 粗砂層 | 直径1cm程の小石混 |
| 4 | 2.5GY4/1 | 暗オリーブ灰色 | | | 細砂層 | |
| 5 | 10Y4/1 | 灰色 | | | 砂質土 (粘質あり) | |
| 6 | 10Y4/1 | 灰色 | | | 砂質土 (粘土混) | |
| 7 | 7.5Y6/2 | 灰オリーブ色 | | | 粘質土 (粗砂混) | 鉄分含む |
| 8 | 10Y4/1 | 灰色 | | | 砂質土 (粘土混) | |
| 9 | 7.5Y4/1 | 灰色 | | | 粘質土 (粗砂混) | |
| 10 | 10Y4/1 | 灰色 (やや, 黒みがかかる) | | | 粗砂層 (粘性あり) | 直径5mm程の小石, 混 |
| 11 | 7.5Y4/2 | 灰オリーブ色 | | | 粗砂層 (粘性強) | 礫, 混 |

S66 平・断面図 (S=1/40)

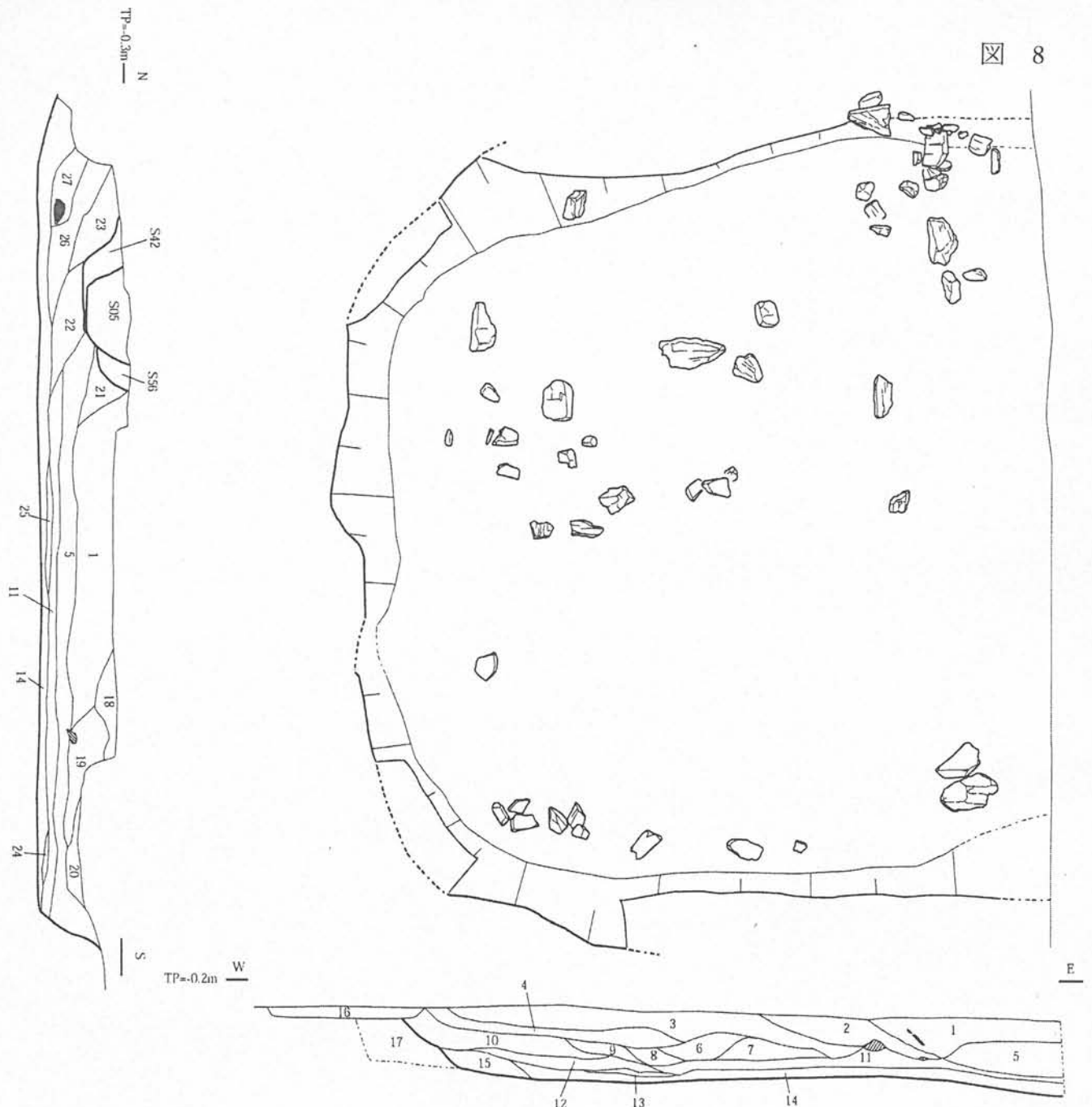


TP=-0.2m



- 1 5Y4/2 灰オリーブ色 粘性砂質土 鉄分、含む 瓦・石、混入
- 2 7.5Y4/2 灰オリーブ色 粘質土 (砂まじり)
- 3 湧き水のため、確認できず 青灰色の粘土層
- 4 7.5Y4/2 灰オリーブ色 (砂粒、粗い) 鉄分、含む
- 5 7.5Y4/1 灰色 粘性砂質土 (粘性強) 鉄分、含む
- 6 7.5Y3/2 オリーブ黒色 粘質土 (砂まじり)

S30 (井戸) 平・断面図 (S=1/20)



- | | | | |
|----|---------|--------|------------------------------|
| 1 | 2.5Y5/3 | 黄褐色 | シルト質粘土 (粗砂まじり) |
| 2 | 2.5Y4/4 | オリーブ褐色 | シルト質粘土 (粗砂まじり) 1層より粘性、強 |
| 3 | 2.5Y4/3 | オリーブ褐色 | シルト質粘土 (粗砂まじり) |
| 4 | 2.5Y5/2 | 暗灰黄色 | 粘性砂質土 |
| 5 | 2.5Y4/4 | オリーブ褐色 | 粘性砂質土 |
| 6 | 2.5Y4/2 | 暗灰黄色 | 粘性砂質土 |
| 7 | 2.5Y4/3 | オリーブ褐色 | 粘性砂質土 (粘性、弱) |
| 8 | 5Y4/2 | 灰オリーブ色 | 粘性砂質土 (粘性、強) |
| 9 | 5Y4/2 | 灰オリーブ色 | 粘質土 (細砂まじり) |
| 10 | 5Y5/2 | 灰オリーブ色 | 粘質土 (粗砂まじり) |
| 11 | 7.5Y5/2 | 灰オリーブ色 | 粘質土 (粗砂まじり) 底部に鉄分が筋状に沈着 |
| 12 | 2.5Y5/2 | 暗灰黄色 | 粘質土 (細砂まじり、粘性、強) 底部に鉄分が筋状に沈着 |
| 13 | 5Y5/3 | 灰オリーブ色 | 粘質土 (細砂まじり、粘性、強) |
| 14 | 5Y5/1 | 灰色 | 粘土 (粗砂まじり) |
| 15 | 7.5Y4/2 | 灰オリーブ色 | 粘土 (砂まじり) |
| 16 | 2.5Y5/2 | 暗灰黄色 | 砂質土 |
| 17 | 2.5Y5/2 | 暗灰黄色 | 砂層 粒子、粗い |
| 18 | 2.5Y4/4 | オリーブ褐色 | 粘質土 (細砂まじり) |
| 19 | 2.5Y5/2 | 暗灰黄色 | 粘土 (砂まじり) |
| 20 | 2.5Y5/3 | 黄褐色 | 粘土 |
| 21 | 5Y5/1 | 灰色 | 粘質土 |
| 22 | 7.5Y5/2 | 灰オリーブ色 | 粘土 (砂、層状に全体的に混入) |
| 23 | 5Y5/2 | 灰オリーブ色 | 粘土 (砂、全体にまだらに混入) |
| 24 | 7.5Y5/2 | 灰オリーブ色 | 粘土 |
| 25 | 5Y5/2 | 灰オリーブ色 | 粘土 |
| 26 | 5Y5/2 | 灰オリーブ色 | 粘土 (砂、層状に多量に混入) |
| 27 | 7.5Y5/2 | 灰オリーブ色 | 粘土 (砂、層状に混入) |

S53 平・断面図 (S=1/40)



S06-2遺物出土状況



S03 (右) ・ S05 (左)
下層掘り下げ状況



S30 (井戸) 半裁状況



S42.43.17.09 (左から)
掘り下げ状況



S39遺物出土状況 (全景)



S39遺物出土状況



S39完掘状況



S53遺物出土状況及び完掘状況



S66平面図作成風景